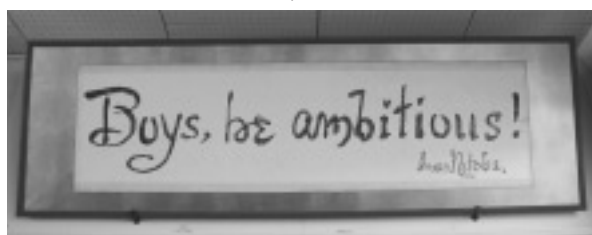


ふるさと見て歩き

第35回
新渡戸稲造の扁額をめぐって

— 前編 —



▲山方中学校に掛る扁額（拓本）

本滞在中、多くの門下生を輩出するとともにキリスト教を基盤とした倫理観・道徳観を広め、これに感銘を受けた学生が相次いで洗礼を受けています。しかしほどなく日本を去ることになり、学生との別れに際して発したのが前出の言葉であるといわれています。

明治十三年卒業の第一期生に渡瀬寅次郎という人物がいます。渡瀬家は江戸在住の旧幕臣でしたが、大政奉還後十五代將軍徳川慶喜に従い沼津に移住しました。その後明治八年に一家で上京し、寅次郎は東京英語学校を経て札幌農学校に進学。そこで二期生として入学してきた新渡戸稲造や内村鑑三ら、日本を代表する政治家、教育者と机を並べることになるのです。新渡戸稲造は初の農学博士となり東大校長を務め、大正期には国連の事務局次長として国際協調に務めました。内村鑑三はキリスト教伝道者で日露戦争に際して非戦論を唱えた人物です。札幌農学校の初期の卒業生は、クラークの薫陶によりキリスト教に基づく人格教育を受けていました。それは彼らの後の生き方や功績に色濃く反映されています。

山方中学校には新渡戸稲造の署名のある「Boys, be ambitious」の扁額が掛っています。ついこの間まで五千円札の肖像だった有名人の書がこんな身近に？この扁額の由来を調べた経過を二回に分けて報告します。

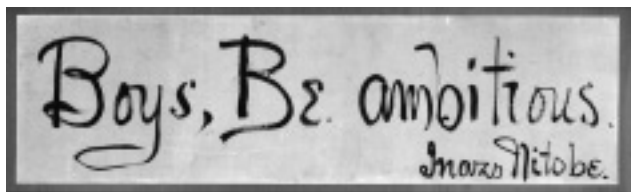
◇Boys, be ambitious!の由来

よく知られているように「Boys, be ambitious!」（青年よ、大志をいだけ）はウィリアム・スミス・クラーク博士が残した言葉です。クラークは明治九年（一八七六）、明治政府からお雇い外国人として札幌農学校（のちの北海道大学農学部）に招かれました。植物学をはじめとする自然科学を英語で教授し、八か月間の日

学校と茨城には意外な接点があったのです。しかし残念ながら山方中学校の扁額とは関わりがないようです。その後、農学を専門とする渡瀬は、明治二十五（一八九二）年に東京興農学園を赤坂に設立、また東京農学校（のちの東京農大）の評議員や大日本農会の重職に就くなど教育界・実業界に貢献しました。故郷久留米（現沼津市西浦）に興農学園を開校することを後輩の新渡戸に託し、昭和元年に渡瀬は死去します。昭和四年、新渡戸が理事長となって開校していましたが、このとき揮毫した「Boys, be ambitious」の額が、のち北大に寄贈され、現在も同大学の所蔵となっているわけです。久連の興農学園跡地には、渡瀬夫妻のレリーフが作られています。

◇山方中学校所蔵の扁額

同文の扁額は山方中学校の多目的室にも掲げられています（写真上）。縦二九cm、横一三三cmほどの大きさで、筆で書いたようにみえますが、実際は石碑の拓本です。よく見ると墨の部分には布目がついているのがわかります。前述の北大学長室のものと比べてみましょう（写真下）。北大のものは直筆、しかも字体も微妙に違います。現在全国の新渡戸氏関連施設や学校にある額は、ほとんどがこの北大学長室の書の複写のようです。では、山方中学校の拓本は？残念ながらこの拓本の元になった碑の所



▲北海道大学学長室に掛る新渡戸稲造筆の扁額（©北海道大学）

在はわかっていません。新渡戸家が代々開拓事業を行った十和田市、新渡戸稲造が起こした興農学園のある沼津市、稲造の母校北海道大学等でもこの関連資料の存在は現在のところ確認できていないのです。更に、この碑が山方中学校に掲げられることになった経緯も明らかではありません。山方中学校は昭和四十一年に山方・諸富野・塩田の三中学校が統合してできましたが、新校舎が完成するまでの三年間は統合前の分教場に分かれて授業が行われていました。新渡戸稲造の扁額は統合直後の校舎では確認されていません。教室はもろろん、教職員の目に触れる場所にもなかつたようです。もつと後に中学校に持ち込まれたものなのか、それとも長い間人目に触れることもなくどこかにしまわれていたのか。どうやらそれは分教場時代に遡れそうなきことがわかってきました。

（来月号に続きます）
山方中学校現職・前職の先生方、卒業生、北海道大学、十和田市立新渡戸記念館、沼津市明治史料館の皆さんに御協力をいただきました。

歴史民俗資料館大宮館
☎ 52-11450